



今月の ブックトーク

皆さんにとっては、今年はどんな秋でしょうか。「文化の日」は、1946年11月3日公布された日本国憲法を記念して、祝日となりました。今回は、日本文化にまつわるお話です。

最初は、元号令和の出典となった日本最古の歌集にまつわる『入門 万葉集』。「令和」は、万葉集巻五の約千三百年前の梅の花を愛でる宴の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和ぎ」から文字が採られました。「初春のめでたき良い月で、天の気、地の気もよくて、風もやさしい」(上野 誠訳)という意味になります。自然を愛でて、風雅を友とする万葉の世界は、令和の時代にも息づいています。新海誠の映画「君の名は」では、「誰そ彼と」で始まる万葉集の歌が出てきますね。この言葉が黄昏の語源と言われています。



上野 誠・著
筑摩書房
ちくまプリマー新書

先月からNHKの朝ドラで小泉八雲夫妻をモデルにした「ばけげん」が始まりました。『怪談』で八雲はご存じだと思いますが、彼の日本での初の著作が『日本の面影』で、明治の日本を海外に紹介しています。解説書の『NHK「100分 de 名著」ブック ス 日本の面影』では、庶民の質素で清廉な生活、神社仏閣、伝承話、盆踊り、庭、自然に宿る神などの記述に聴覚の言語化の特徴があり、根底に共鳴する深い思考と敬愛の念があると分析しています。八雲は「日本人の精神には素晴らしい平静さが保たれている」と言及していますが、海外から見る視点から日本文化



池田 雅之・著
NHK出版

11月(霜月)「文化の日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

を重層的に顧みる機会としたいものです。

日本の色彩感覚も繊細で実に多彩です。そこで『時代別 日本の配色事典』。古代から江戸時代までの日本の色彩史で歴史を振り返ってみましょう。古代の色彩認識は太陽の出没に係り、夜明けのアカ、日没のクロ、辺りがはっきりしたシロ、明暗中間のアラ4色が基本となりました。日本神話、冠位十二階、陰陽五行説、仏教装飾、平安王朝、鎧兜、枯山水・わびさび、能楽の幽玄美、天下人と黄金、元禄小袖、友禅染、琳派、磁器、質素倹約での四十八茶百鼠、浮世絵と時代によって変遷する色彩を全ページカラーで味わえます。



城 一夫・著
パイインター
ナショナル

最後は、お茶で一服しましょう。八雲と同時代人の岡倉天心著『茶の本』です。天心は伝統日本美術の復興運動を起こしますが、当時西欧化に邁進していた日本では孤立し、ボストン美術館で職を得、NYで日露戦争直後に英語でこの本を出版します。東洋に無理解な西洋に憤り、富と権力を求める争いを嘆き、「おぞましい戦争の栄光が文明国の証なら、われわれは喜んで野蛮人のままでいよう」。武士道が「死の術」として話題となるが、茶道は、「生の術」であるとし、「儚さを夢にみて、美しく、されど、取りとめのないことに時間をゆだねてみよう」とお茶に誘います。茶室(数寄屋)は余計な装飾を排した簡素な小屋であり、静謐な自然との穏やかな調和を重ねた心の平穩に日本の美を見出し紹介しています。



岡倉 天心・著
IBCパブリッシング

最後のページの： Q1 ② 植物 Q2 ② 折り紙 Q3 ① はじめて Q4 ③ ラムスデン現象
クイズの答え

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

